

第134回 国際母子カンファレンス

講演：「難民の安全保障のために何が必要か？」 ——難民健康手帳の可能性——

講師：早稲田大学 国際学術院（大学院アジア太平洋研究科）教授；
国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター（iGHP）
グローバルヘルス外交・ガバナンス研究科長

勝間 靖 先生

日時：2017年12月20日（水） 18:00～20:00

■ 18:00～18:15 / マンスリーレポート

■ 18:15～19:15 / 講演 / 19:15～質疑応答

場所：国立国際医療研究センター 研究所会議室AB（地下1階）

主催：国際母子タスクフォース 協賛：医薬会

*** 講演は事前登録なしでどなたでもご参加いただけます。**



世界には、日本の人口の約半数に当たる6,530万人が故郷を追われています（UNHCR,2015）。
難民が生まれる背景には、政治体制、歴史、民族や宗教の対立、南北問題、貧困問題などさまざまな事柄が複雑に絡んでいます。
国連は、解決方法として次の3つ（1）平和になった母国へ帰国すること、（2）一時的に避難した周辺国での定住、（3）第三国定住、を
提言していますが、そもそも難民が発生しないように、紛争や深刻な人権侵害を解決していくための国際的な協力が重要です。
このような中で、「人間の安全保障」の視点から難民の安全保障のために何が必要か、難民の保護とエンパワーメント（力をつける
こと）の両面から考えていき、母子手帳からヒントを得た難民健康手帳の可能性についてお話しします。